
しりとり。

那音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

しりとり。

【コード】

N4656S

【作者名】

那音

【あらすじ】

- ・ 会話文のみ
- ・ しりとり会話

(前書き)

では、『ついでに。』の『じ』かなじいねー…！

「理由が聞きたいな」
「何でって、あなたの顔に書いてあるわよ」
「よくそんなことが言えるね、君は」
「私は嘘をついてはいない」
「意味がわからないな。そのこと自体が嘘だろう」
「ううん、本当よ」
「よし、わかった。信じるさ」
「さすがね。あなたのそういう所、大好きよ」
「よしてくれよ、照れるじゃないか」
「かわいいわよ。照れた顔も」
「もしよければ、『かわいい』じゃなくて『かっこいい』と言ってほしい」
「嫌よ。あなたは『かっこいい』んじゃないよ。『かわいい』人だもの」
「ノー、ノー、ノー。君は男性に対する礼儀がなってないな」
「何かしら、男性に対する礼儀って。知りたいわ」
「わかった。教えてあげよう」
「うん？ 意外とヤル気？」
「……君に言っても無駄な気がしてきたよ」
「よくもまあそんなことが言えるわね。私には女性としての品が欠如しているっても？」
「もちろん自信があるんだろうね？ そんなことを言うからには」
「私にも最低限の品性はあります！！」
「すばらしい。よもや君の口からそんな言葉が出るとはね」
「ねえ、はやく教えてよ」
「よろしい。まず、男性は『かっこよく』見られたいものだ。そういうものだ、男性は」

「私……、いや、女性だって若く見られたいものよ」

「よくわかっていないじゃないか。男性だって似たようなものだよ」
「よくわかった、うん」

(後書き)

強制終了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4656s/>

しりとり。

2011年10月8日18時25分発行